

# ダニエル9章

「メシアなる一人の君」

(9:25)

ダニエル9章は8章からの継続（補足的説明）

キリスト教の土台石と言われるメシア預言がある。



# ポイント

(1) 9章は新しい幻や預言ではなく、**8章の継続**であると言うこと。9章は独立したものではなくて、**8章の幻についての、補足的説明。**

用いられている言葉や、**聖所**をその背景としていること、同じ天使、聞く啓示であること、最も大切な聖所の清めという思想などから、裏付けられます。

(2) 9章は、「**キリスト教の土台石**と言われる、**メシア預言**を含んでいる」。これはアイザック・ニュートンの言葉です。9：24-27は、メシアの出現とそのあがないの死についての預言で、こんなにはっきりと出ているのは、ここしかありません。イザヤ書53章や創世記の3章にも出ていますが、はっきり「**メシアなるひとりの君が来**」て、そして「**断たれる**」と宣言されているのはここしかありません。

# 注解

1メデアびとアハシュエロスの子ダリヨスが、カルデヤびとの王となったその元年、

2 すなわちその治世の第一年に、われダニエルは主が預言者エレミヤに臨んで告げられたその言葉により、エルサレムの荒廃の終るまでに経ねばならぬ年の数は七十年であることを、文書によって悟った。

3 それでわたしは、わが顔を主なる神に向け、断食をなし、荒布を着、灰をかぶって祈り、かつ願い求めた。

年代は、BC538年頃です。8章の幻からすでに10年近く経っています。2節で、ダニエルはエレミヤの預言について、調べていました。荒廃の終わるのは70年であることを文書すなわち聖書によって悟りました。ダニエルは、イスラエルの民のことを思い、解放の時を願いました。



# エレミヤの預言

エレミヤ25：11 この地はみな滅ぼされて荒れ地となる。そしてその国々は七年の間バビロンの王に仕える。

エレミヤ25：12 主は言われる、七十年の終った後に、わたしはバビロンの王と、その民と、カルデヤびとの地を、その罪のために罰し、永遠の荒れ地とする。

エレミヤ29：10主はこう言われる、バビロンで七十年が満ちるならば、わたしはあなたがたを顧み、わたしの約束を果し、あなたがたをこの所に導き帰る。

ネブカデネザルがエルサレムを包囲し、聖所を荒らし、ダニエルたちを捕虜として連れ去ったのはBC605年です。70年は、BC536年までです。この9章の時点では、まもなく70絵年が満ちようとしていました。バビロンは確かに滅びた。ではこの後、実際、どうなるのだろうか。

## ダニエルの祈り ダニエル9：4-19

4 すなわちわたしは、わが神、主に祈り、ざんげして言った、「ああ、大いなる恐るべき神、主、おのれを愛し、おのれの戒めを守る者のために契約を保ち、いつくしみを施される者よ、

5 われわれは罪を犯し、悪をおこない、よこしまなふるまいをなし、そむいて、あなたの戒めと、おきてを離れました。

6 われわれはまた、あなたのしもべなる預言者たちが、あなたの名をもって、われわれの王たち、君たち、先祖たち、および国のすべての民に告げた言葉に聞き従いませんでした。

7 主よ、正義はあなたのものですが、恥はわれわれに加えられて、今日のような有様です。すなわちユダの人々、エルサレムの住民および全イスラエルの者は、近き者も、遠き者もみな、あなたが追いやられたすべての国々で恥をこうむりました。これは彼らがあなたにそむいて犯した罪によるのです。

## ダニエルの祈り ダニエル9：4-19

8 主よ、恥はわれわれのもの、われわれの王たち、君たちおよび先祖たちのものです。これはわれわれがあなたにむかって罪を犯したからです。

9 あわれみと、ゆるしはわれわれの神、主のものです。これはわれわれが彼にそむいたからです。

10 またわれわれの神、主のみ声に聞き従わず、主がそのしもべ預言者たちによって、われわれの前に賜わった律法を行わなかつたからです。

11 まことにイスラエルの人々は皆あなたの律法を犯し、離れ去って、あなたのみ声に聞き従わなかつたので、**神のしもべモーセの律法にしるされたのろいと誓い**が、われわれの上に注ぎかかりました。これはわれわれが神にむかって罪を犯したからです。

12 すなわち神は大いなる災をわれわれの上にくだして、さきにわれわれと、われわれを治めたつかさたちにむかって告げられた言葉を実行されたのです。あのエルサレムに臨んだような事は、全天下にいまだかつてなかった事です。

## ダニエルの祈り ダニエル9：4-19

13 モーセの律法にしるされたように、この災はすべてわれわれに臨みましたが、なおわれわれの神、主の恵みを請い求めることをせず、その不義を離れて、あなたの真理を悟ることをもしませんでした。

14 それゆえ、主はこれを心に留めて、災をわれわれに下されたのです。われわれの神、主は、何事をされるにも、正しくあらせられます。ところが、われわれはそのみ声に聞き従わなかったのです。

15 われわれの神、主よ、あなたは強きみ手をもって、あなたの民をエジプトの地から導き出して、今日のように、み名をあげられました。われわれは罪を犯し、よこしまなふるまいをしました。

16 主よ、どうぞあなたが、これまで正しいみわざをなされたように、あなたの町エルサレム、あなたの聖なる山から、あなたの怒りと憤りとを取り去ってください。これはわれわれの罪と、われわれの先祖の不義のために、エルサレムと、あなたの民が、われわれの周囲の者の物笑いとなつたからです。

## ダニエルの祈り ダニエル9：4-19

**17** それゆえ、われわれの神よ、しもべの祈と願いを聞いてください。主よ、あなたご自身のために、あの荒れたあなたの聖所に、あなたのみ顔を輝かせてください。

**18** わが神よ、耳を傾けて聞いてください。目を開いて、われわれの荒れたさまを見、み名をもってとなえられる町をごらんください。われわれがあなたの前に祈をささげるのは、われわれの義によるのではなく、ただあなたの大的なるあわれみによるのです。

**19** 主よ、聞いてください。主よ、ゆるしてください。主よ、み心に留めて、おこなってください。わが神よ、あなたご自身のために、これを延ばさないでください。あなたの町と、あなたの民は、み名をもってとなえられているからです」。

# ダニエルの祈りについて。

ダニエル9章の祈りは、エズラ9章、ネヘミヤ9章の祈りとならんんで、旧約の三大懺悔祈祷と呼ばれます。この祈りの優れているところは、もーセのように、イスラエルの罪を自分の罪とみなしていることです。われわれは罪を犯し、われわれはこれこれこしました、と。ダニエルはとりなしの祈りを捧げていたのです。

祈りのテーマは、エルサレムの聖所の回復です。「聖所」の問題がこの祈りの中心です。そのために、赦しを嘆願し、神の介入を求めていきます。

11節の「**神のしもべモーセの律法にしるされたのろいと誓い**」は、レビ記26：14-42や申命記28：15-68などを指しています。

## 後半に移ります。9：20-21

**20** わたしがこう言って祈り、かつわが罪とわが民イスラエルの罪をざんげし、わが神の聖なる山のために、わが神、主の前に願いをしていたとき、

**21** すなわちわたしが祈の言葉を述べていたとき、わたしが初めに幻のうちに見た、かの人ガブリエルは、すみやかに飛んできて、夕の供え物をささげるころ、わたしに近づき、

この言い方は明らかに、8章との結びつきを意味しています。幻の内容から言っても、言葉から言っても、8章の解き明かしを補って完成させるものが9章であることは確かでしょう。

## 後半に移ります。9：22-23

22わたしに告げて言った、「ダニエルよ、わたしは今あなたに、知恵と悟りを与えるためにきました。

23あなたが祈を始めたとき、み言葉が出たので、それをあなたに告げるためについたのです。あなたは大いに愛せられている者です。ゆえに、このみ言葉を考えて、この幻を悟りなさい。

ガブリエルの言葉通り、ダニエルが祈り始めた時、み言葉が出て、彼は幻を悟るようにと、ダニエルに告げています。

## 9 : 24 (1)

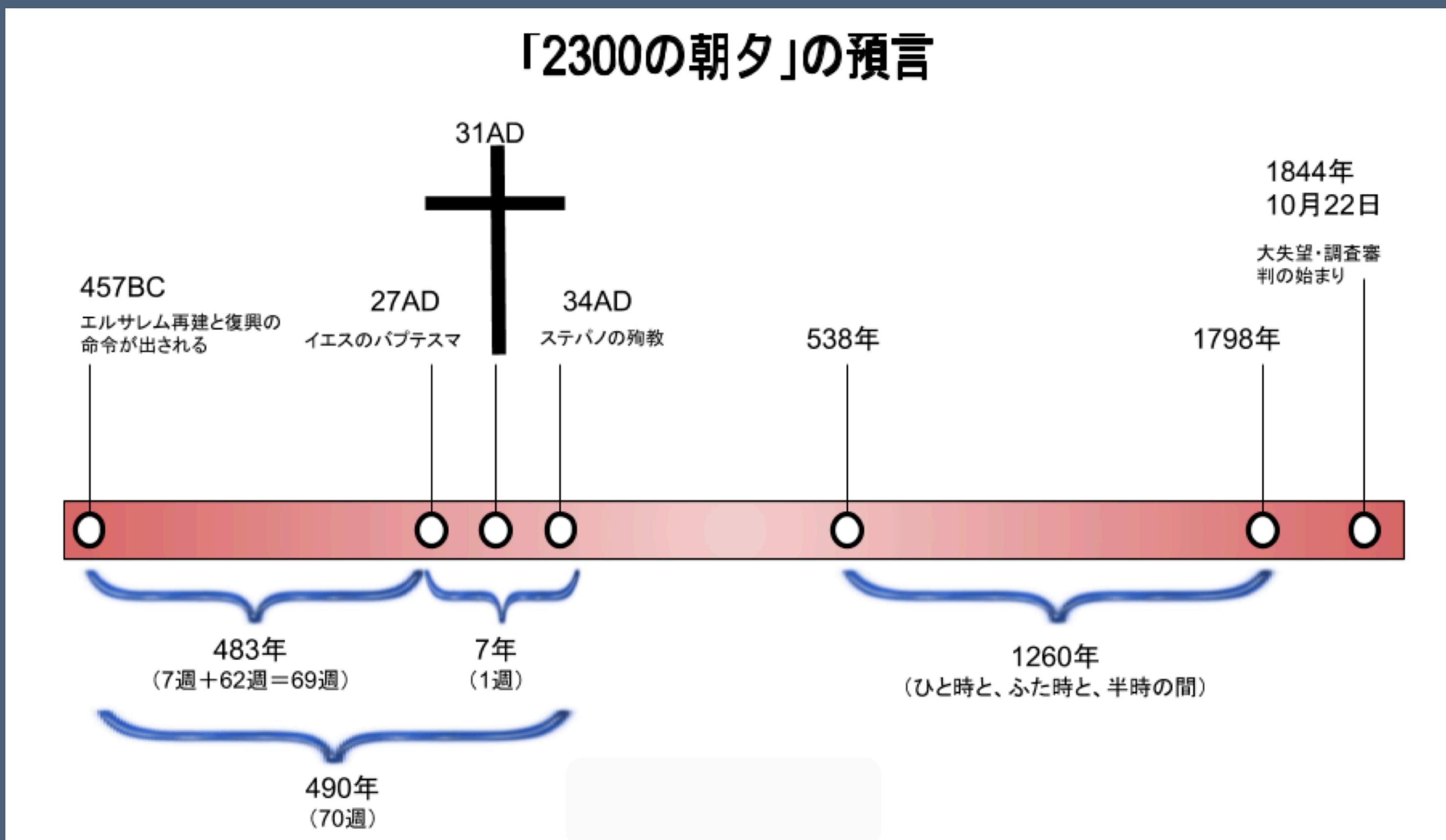
**24 あなたの民と、あなたの聖なる町については、七十週が定められています。 (前半)**

8:14で、「**2300の夕と朝**」という期間が告げられました。しかしそれは一体いつから数えてのことなのか、つまり起算点がわかりませんでした。これに対する答えが24-27節です。24節ではまず全体の要約が述べられて、25-27節で細かな解説がなされています。

ユダヤ人とエルサレムのために特に「**70週**」が「定められて」いる。「さだめられている」という言葉は、もともと「切り取る」という意味です。いったい何から「切り取る」のか。どの期間の中で取り分けられているというのか。これは明らかに、その前の幻、すなわち、「**終わりの時にかかる**」(8:17) 「**2300の夕と朝**」(8:14) から「切り取る」、取り分けられているの意味であると解釈できます。

## 9：24 (1) 続き

この「**70週**」の間に何がなされるのか、これはそもそも何のための期間なのか。この期間は、ユダヤ人とエルサレムのためのものです。つまり、この期間は実は、**神の民として選ばれていたユダヤ民族にとっての猶予期間**なのです。この期間に、**彼らは自らの運命を決する**のでした。



## 9：24 (2)

**24・・・これはとがを終らせ、罪に終りを告げ、不義をあがない、永遠の義をもたらし、幻と預言者を封じ、いと聖なる者に油を注ぐためです。** (後半)

ここにあげられている六つの事柄は、二つづつ、三つの組みに分けられます。最初の二つは神の民（ユダヤ民族）の責任に関するもの、次の二つは神ご自身のなされるわざ、最後の二つはそれらの結果に言及していると見ることができます。

**とがを終らせ、罪に終りを告げ**=「とが」とは「（神への）反逆」。「罪」は一般的な「罪」とも「罪祭」ともとれ、それぞれによって全体の解釈が少しく違ってきます。「終わりを告げ」とは「封する、終始させる」の意味です。

**不義をあがない、永遠の義をもたらし**=これは明らかにキリストの十字架を指していると考えられます。

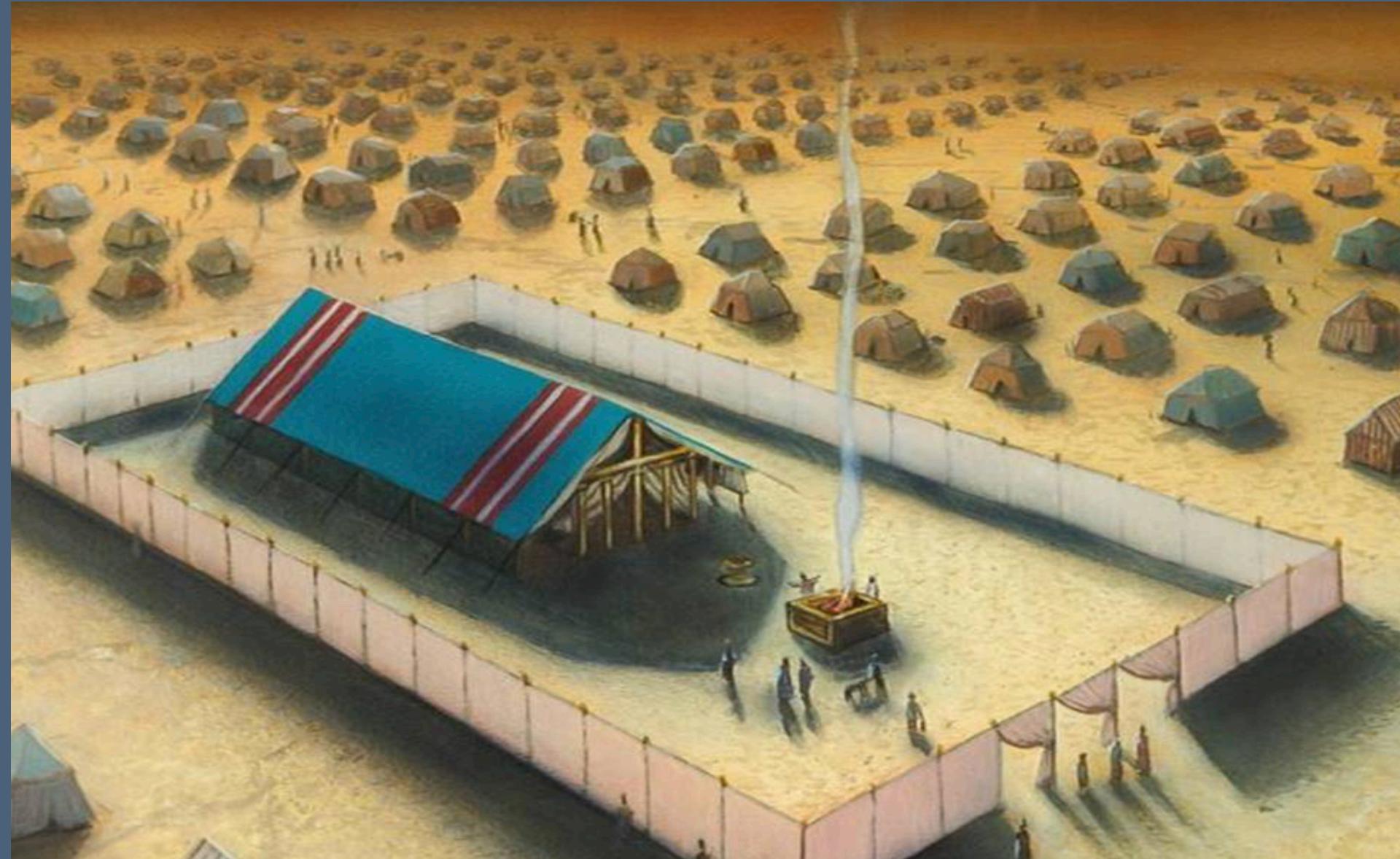
**幻と預言者を封じ、いと聖なる者に油を注ぐ**=この封じは、確証する、確かなものとするの意に解されます。つまり、キリストに関する預言が成就することを指しています。「幻と

## 9：24 (2) 続き

預言者が、その実現によって真実であると証明される」ことです。さて、問題は、

「いと聖なる者」ですが、これは誤訳で正しくは「いと聖なる所」です。場所のことです。この語が旧約聖書で用いられている場合、常に聖所との関連で使われており、特定の言及がない限り人物を指すことはありません。ですからこれは「聖所」のことであり、キリストが昇天後、天の聖所で大祭司としてのお働きをはじめられること

(ヘブル8：1-2参照、出エジプト40章も参照) を示すと解釈されます。



## 9：25 (1)

**25** それゆえ、エルサレムを建て直せという命令が出てから、メシヤなるひとりの君が来るまで、七週と六十二週あることを知り、かつ悟りなさい。その間に、しかも不安な時代に、エルサレムは広場と街路とをもって、建て直されるでしょう。

ユダヤ民族のための「70週」の期間はいつから始まるかが、ここで告げられます。そしてこの「70週」は、「2300の夕と朝」の期間から切り取られたものですから、「70週」の起算点は同時に「2300」の起算点でもあります。

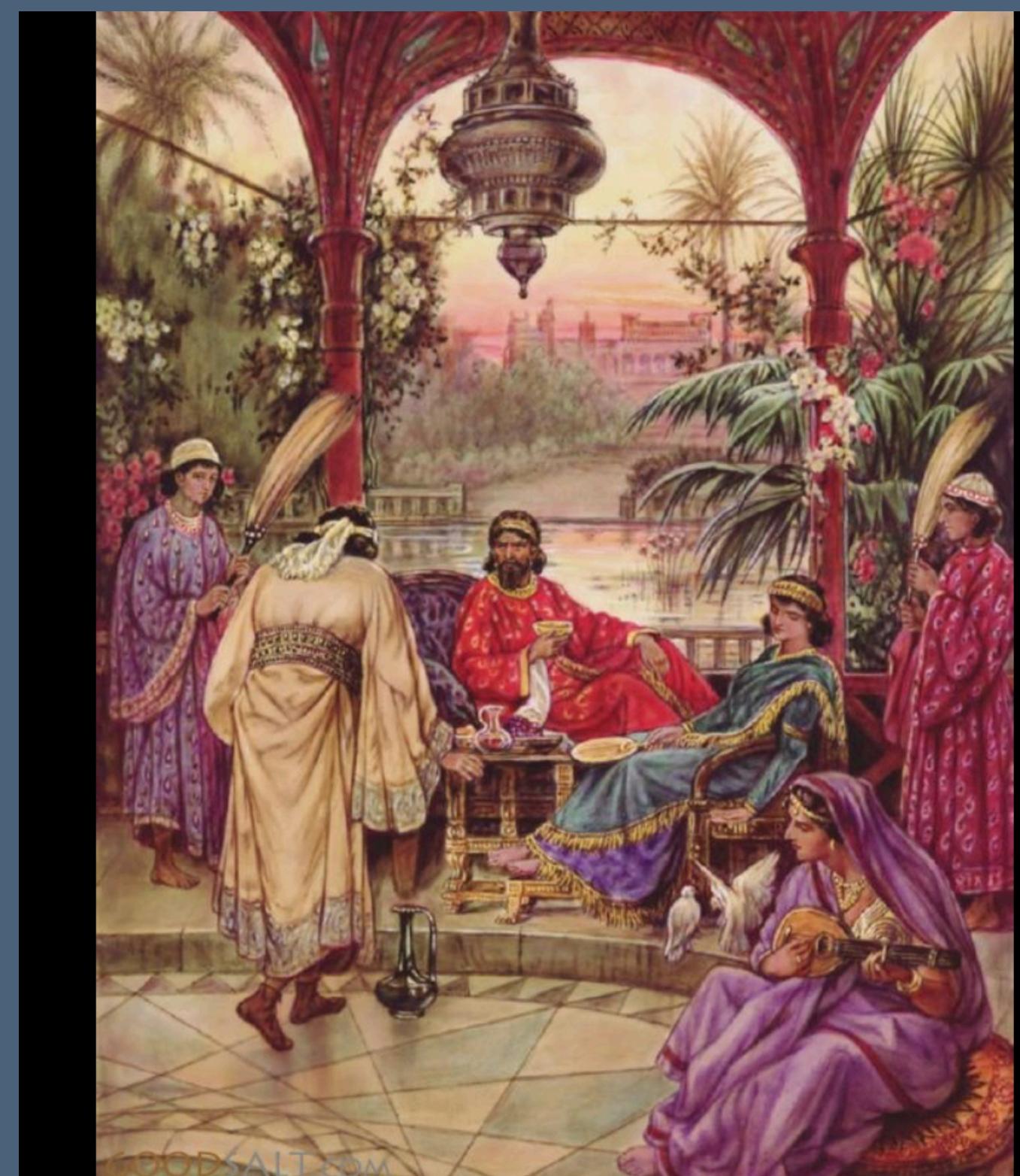
さて、この「エルサレムを建て直せという命令」は全部で4回出されたと考えられています。

## 9：25（2）

①紀元前538年～537年。クロス（キュロス）大王によって。歴代志下36：22、23、エズラ1：1-4、6：3-5。これは捕囚の民を帰らせ、宮の再建を命ずるものでしたが、エルサレムの町の再建を支持するものではありませんでした。

②紀元前520年ごろ。ダリヨス王（1世ヒスタンペス）によって。エズラ6：1-12。クロス王の命令を再確認したもの。

③紀元前457年。アルタシャスタ（アルタクセスクセス1世）によって。エズラ7：1-26。これはユダヤ人たちに行政的権限（自治権）を認めるもので、これによって初めて完全な再建が可能となりました。



King Artaxerxes

## 9：25 (3)

④紀元前445—444年。 アルタシャスタ王によって。ネヘミヤ2章。エルサレムの城壁の修理・再建を認めるもの。（すでに大部分はエズラの指揮のもとに完了していたため、ネヘミヤは「52日」という短期間で城壁の修理を完成しました（ネヘミヤ6：15）。

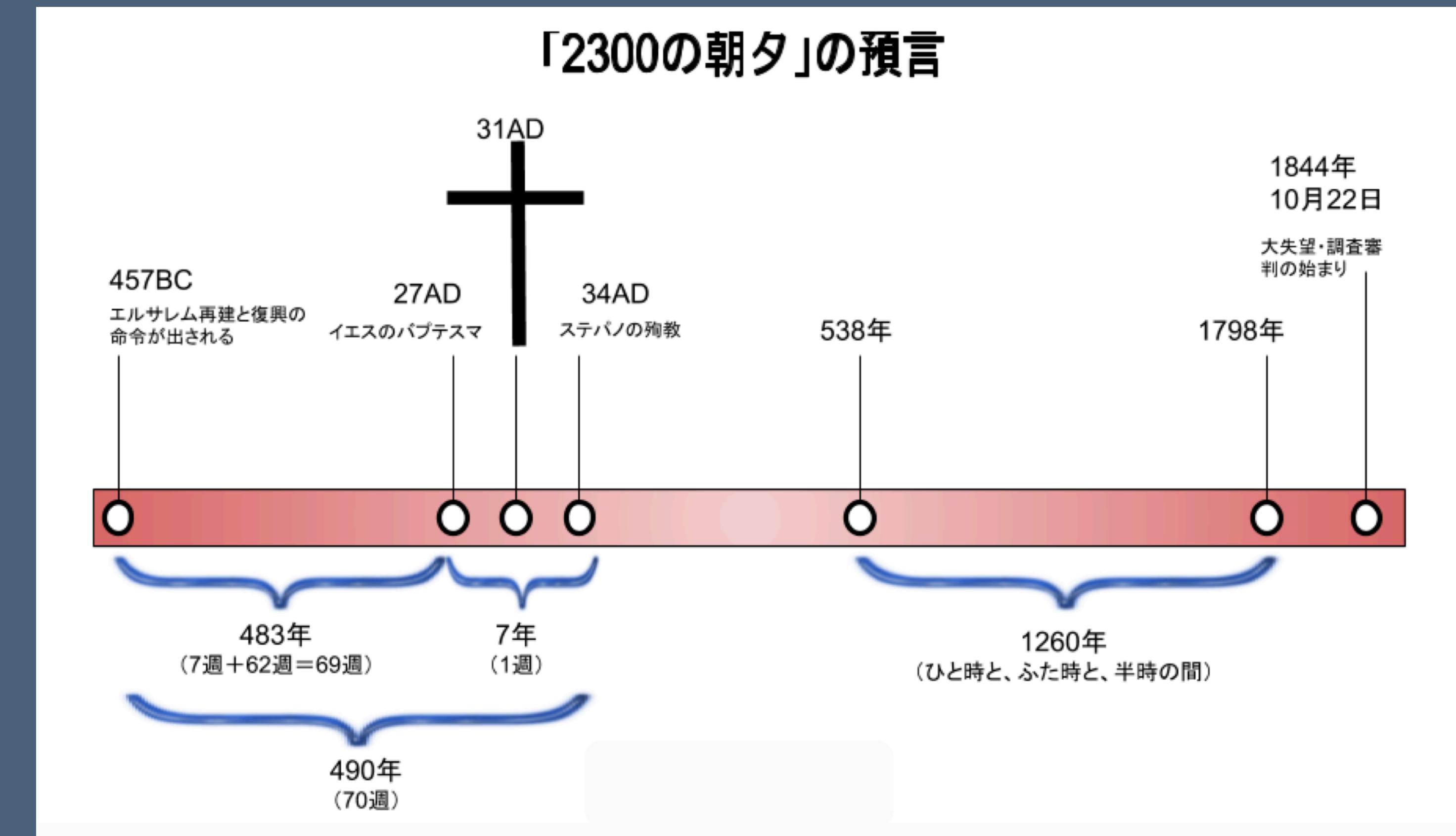
これら四つの命令をみてみると、「エルサレムを立て直せという命令」に最もふさわしいのは、③のアルタシャスタ王による命令と考えられます。ペルシャ帝国の傘下にありながらも、完全な自治権が認められることになり、これによって、はじめてエルサレムの本格的な再建が可能になったからです。

ですから、「**2300の夕と朝**」の起算点一すなわち「70週」の起算点スタート地点は**紀元前457年**ということになります。

9 : 25 (4)

## 図式説明

24節の説明の続き：70週はユダヤ人のための猶予期間でした。しかし、どうなったのでしょうか。

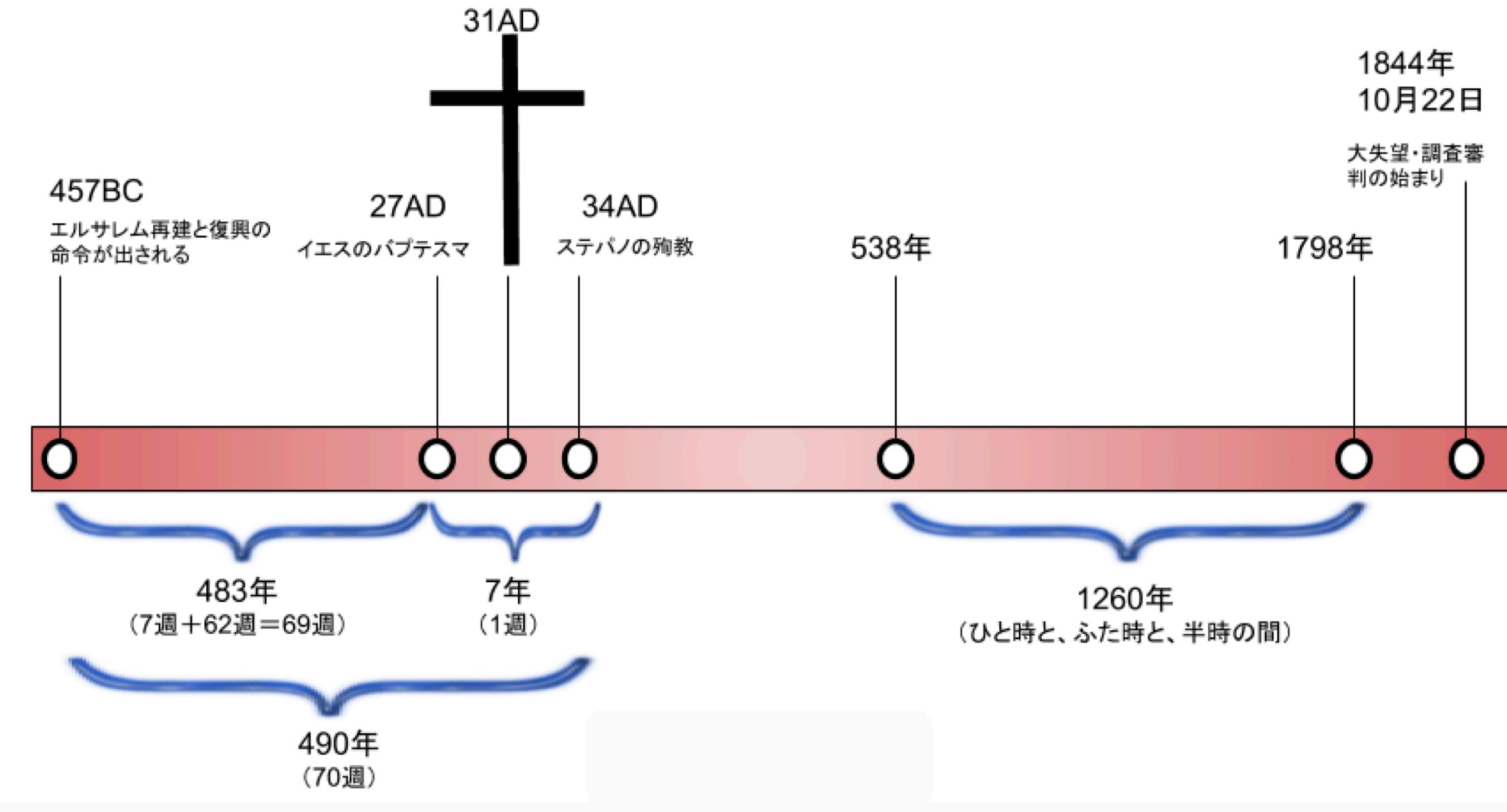


起算点がわかると、70週の490年はすぐにわかります。それは**34AD**となります。その年はステパノが石打ちにあって、殉教した年です。7週と62週のあと、週の半ばにメシアは断たれる（26節）というのは、**27ADイエスのバプテスマの年**、すなわちイエスが伝道を始められた年にあたりますが、イエスはちょうどその**3年半後**、**31ADに十字架**にかかりました。ステパノはそのまた**3年半後に殉教しました**。（聖書で**3年半**というのは非常に重要なポイントです。）

## 9：25 (4)

キリストによる天の聖所のきよめ、罪の除去の働き

### 「2300の朝夕」の預言

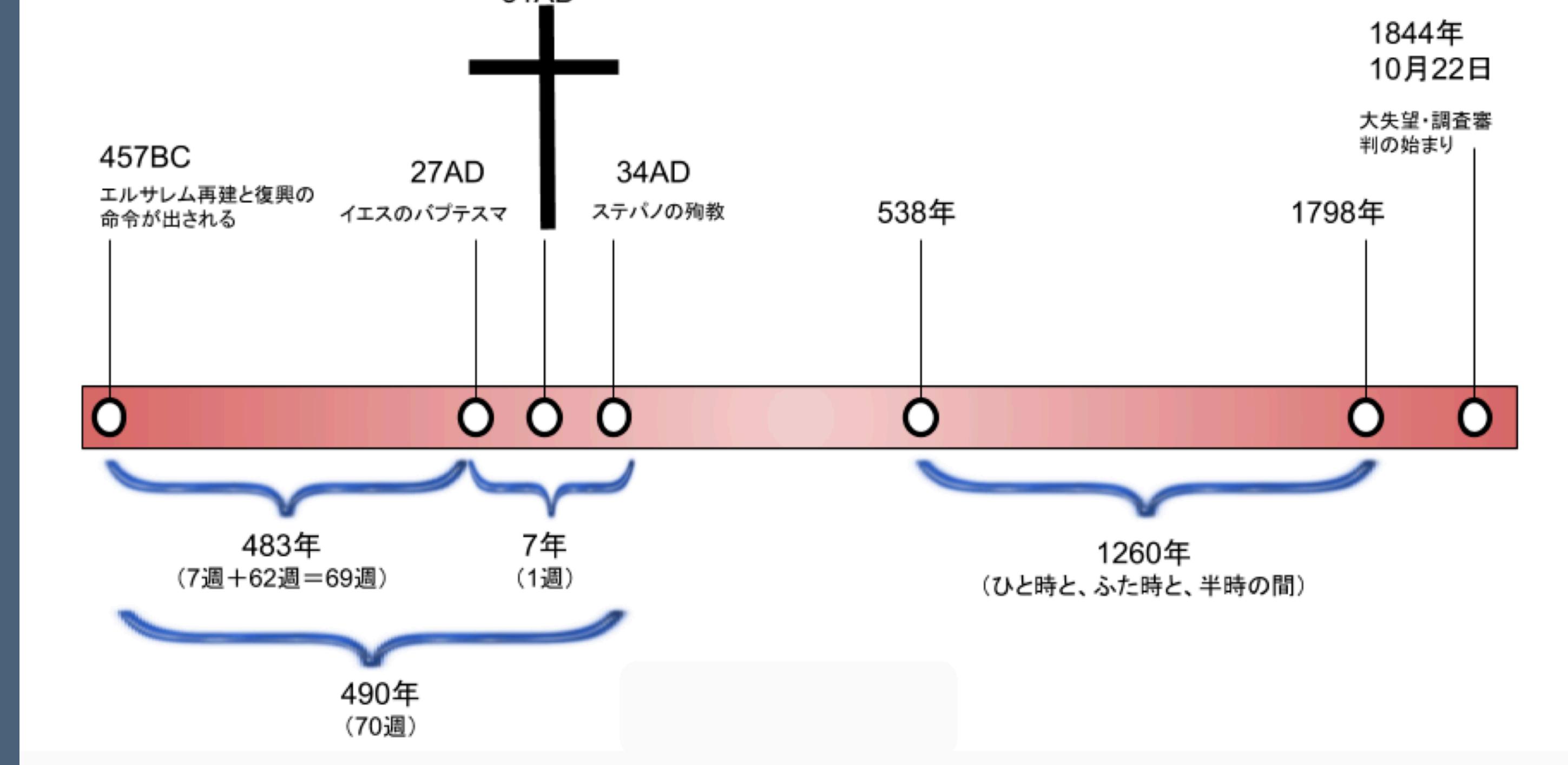


ステパノの殉教によってユダヤ人は、自分たちの選民としての役割を放棄してしまったので、パウロに代表されるように、そのあとからは異邦人へ向けて世界宣教が本格的に始まりました。それから**2300年の後すなわち1844年**かつて年に一度地上の聖所のきよめがあったように、今度は天でイエス・キリストによる罪の最終的な除去、消し去る働きが始まりました。

9 : 25 (6)

## 調査審判の働き

### 「2300の朝夕」の預言



罪が本当に消し去られるためには、その人が本当に悔い改めているかどうか、その人が本当にキリストに寄りすがって生きているかどうかを確かめる必要があります。確かめることを通して、本当にキリストの贖いの意味が、そして神のことが全宇宙に明らかになる。それを私たちは調査審判の働きと呼んでいます。

## 9 : 26 (1)

**26** その六十二週の後にメシヤは断たれるでしょう。ただし自分のためにではありません。またきたるべき君の民は、町と聖所とを滅ぼすでしょう。その終りは洪水のように臨むでしょう。そしてその終りまで戦争が続き、荒廃は定められています。

62週後にメシヤが断たれること、それは自分のためではないこと。きたるべき君の民は、町と聖所を滅ぼすとはどんな意味があるのでしょうか。

さらに、終わりが洪水のように望み、終わりまで戦争が続き、荒廃が定められている、とは・・・・・？

図式で年代計算と出来事をご覧ください。

## 9：26 (2)

- その六十二週の後にメシヤは断たれるでしょう。**とは、図でご覧になられた通り、**西暦27年**にイエスが十字架にかかるれることを示します。
- ただし自分のためではありません。**とは、直訳すれば、「彼には何もない」ですが、「彼のために誰もいない」ということで、**イエスが人々から完全に拒否された**ことを意味します。
- きたるべき君の民は、町と聖所とを滅ぼすでしょう。**君の民とは、ユダヤ民族のことのようです。彼らが「町」すなわちエルサレムと聖所を滅ぼすということ。エルサレムと神殿を破壊したのは、なるほどローマ軍でしたが、もとはと言えばかれらの不信仰のゆえでした。**ユダヤ人自身が滅びを招いた**のです。
- その終りは洪水のように臨む、そしてその終りまで戦争が続き、荒廃は定められています。**  
**洪水は戦争を表す**と考えられています。**戦争によって、荒廃します。**しかもそれは**定められている**のです。

## 9：27 (1)

27 彼は一週の間多くの者と、堅く契約を結ぶでしょう。そして彼はその週の半ばに、犠牲と供え物とを廃するでしょう。また荒す者が憎むべき者の翼に乗って来るでしょう。こうしてついにその定まった終りが、その荒す者の上に注がれるのです」。

- 彼は一週の間多くの者と、堅く契約を結ぶでしょう。**これは、キリストがご自分の民（ユダヤ民族）との契約を確認されることを意味していると解釈されています。これは**神の民への特別なあわれみ**でした。しかし結局、彼らは**特権を拒否**してしまったのです。
- そして彼はその週の半ばに、犠牲と供え物とを廃するでしょう。**これは文字通り、すべての動物の犠牲とそれ以外のささげ物、つまり犠牲制度全体を表しています。十字架上のあがなないの死によって、犠牲制度は意味を失いました。実体が来たからです。

## 9：27 (2)

27 彼は一週の間多くの者と、堅く契約を結ぶでしょう。そして彼はその週の半ばに、犠牲と供え物とを廃するでしょう。また荒す者が憎むべき者の翼に乗って来るでしょう。こうしてついにその定まった終りが、その荒す者の上に注がれるのです」。

- また荒す者が憎むべき者の翼に乗って来るでしょう。ローマによるエルサレムの陥落、そしてそれを招いたユダヤ人自身の背信を意味しているのかもしれません。
- そして彼はその週の半ばに、犠牲と供え物とを廃するでしょう。これは文字通り、すべての動物の犠牲とそれ以外のささげ物、つまり**犠牲制度全体**を表しています。**十字架上**のあがな  
いの死によって、犠牲制度は意味を失いました。**実体が来たから**です。
- こうしてついにその定まった終りが、その荒す者の上に注がれるのです。ローマに注がれる  
「定まった終わり」。あるいは、背信のイスラエルに注がれる「定まった終わり」。26節  
との対比などから、後者の方が妥当かと思われます。いずれにしてもこのあたりは難解で、  
いく通りかの解釈が可能です。

## 9：27 (4)

いろいろ難しい9章ですが、いろんな解釈や読み方があります。そのように覚えおかれていいと思います。しかし大切なことは、**キリストの十字架が予告されている**ということです。

また、**神のタイムラインは、正確に動いている**ということです。

# まとめ

1. 9章から神はどういうお方かを学ぶことができます。一神は祈りを聞かれる。すべてを定め支配しておられる（23節）。

すべてをさだめ、支配しておられる。24-27節には「**定められている**」という言い方がなん度も出てきます。この9章は、ダニエル書の他の章を同様、**神がすべてを支配しておられることを強調**しています。罪の世は、必ず終わりがきますが、**ひとりひとりの心からの祈りに耳を傾けられます。時を支配し、ひとりひとりを顧みられるお方**です。その**お方に信頼すること**をこの章は教えています。

2. ダニエル書の中心・焦点は常にキリストです。このことは非常に重要です。

## まとめ 続き

2章では、『石』

3章では、『第四の者』（25節）

6章では、ダニエルの受難は明らかにキリストの受難を連想させるものでした。

7章では、「人の子のような者」（13節）でした。

8章では、「衆群の主」（11節）であり、またガブリエルに呼びかけておられます。（16節）

9章では、「メシアなるひとりの君」、それも「断たれる」おかたとしてはっきり告げられています。

10-12章にかけての幻では「ミカエル」として示されています。

ダニエル書の意味を知ることは重要ですが、その中のキリストを見失わないようにすることは大変重要です。ヨハネ5：39「あなたがたは、聖書の中に永遠の命があると思って調べているが、この聖書は、わたしについてあかしをするものである。」これが当てはまるのかもしれません。

## まとめ 続き

3. もう一つは、この9章は希望のメッセージであること。「**ガブリエル**」から連想できます。こん天使名が出てくるのは、聖書の中で3箇所だけですが、**ダニエル書8章、9章とルカ1章**です。ダニエル8章9章でメシアの到来を告げたガブリエルが、時満ちて神の大時計がその”時”を指し示したとき、神からつかわされてザカリヤに現れ、マリヤに現れました。ガブリエルはイエスの誕生を予告して、「**神はとこしえにヤコブの家を支配し、その支配は限りなく続くでしょう**」と宣言しています（ルカ1：33）。これはダニエル書ときわめて密接に結びつく思想ではないでしょうか。天使ガブリエルの登場からも、またそのメッセージの内容からも、**この9章はルカの1章にそのままつながっていく意義深い章であると言わねばなりません。**

